

## 生ごみ発酵処理容器の使い方について

密閉式の容器を用いてのEM生ごみ堆肥作りは、空気のない状態で働く微生物の活動を利用するので、虫が発生しづらいのが特徴です。

### EM生ごみ堆肥の作り方

#### ①生ごみ発酵処理容器の準備

まず、バケツ内の目皿の上に新聞紙を敷き、その上にEMボカシを敷く。

※新聞紙を敷くことで目詰まりを防ぐとともに、発酵液が濾過され澄んだものになります。

#### ②生ごみとEMボカシを入れる

生ごみは十分に水を切り、細かく切って容器の中に入れる。その後、EMボカシを一握り分(約30g)ふりかけて、しゃもじなどでEMボカシが混ざるようにかきまぜ、生ごみを押し内部の空気を押し出すようにして容器にフタをする。

※基本的に生ごみなら大丈夫ですが、たまねぎの茶色い皮、たけのこの皮、みかんの皮、とうもろこしの芯、魚のアラ、肉の骨、蟹の甲羅、貝殻等は分解に時間がかかります。また、水気が多いと発酵がうまく進みませんので茶殻はよく絞り、スイカやメロンの皮は乾燥させてから容器に投入してください。

#### ③発酵液を取り出す

生ごみを投入してから1週間程度で、容器の底に発酵液が溜まり始めるのでその都度取り出す。容器に生ごみが8分目になるまで、②から③の作業を繰り返す。

※発酵液を1000倍に薄めると液肥として使用できます。また、100倍に薄めて排水口やトイレ等に流すと、嫌なニオイやヌメリがなくなります。

#### ④発酵を続ける

直射日光を避け、密封し、2週間程度発酵を続ける。  
漬物のような匂いであれば、ボカシあえのできあがりです。

※悪臭を放っている場合は、発酵ではなく腐敗が進んでいるので、その場合は中身を捨てて、容器を洗い乾燥させてから、再度肥料づくりを行ってください。また、ボカシあえの時点では発酵段階なので生ごみの形はほとんど変わりません。

#### ⑤土と合わせて熟成させる

ボカシあえと土を混ぜることにより、土壌微生物などによって分解され堆肥になります。

##### ・プランターを活用する場合

まず、プランターの底に赤玉土などのごろ土を敷き、次にボカシあえと土(園芸用などの土)を混ぜたものを上にのせ、さらにその上に土をかぶせ、ビニールなどで覆い、1ヶ月以上の期間を置き、ボカシあえが分解されて黒い堆肥になると、種や苗を植えることができます。

##### ・庭や畑のうねの間に埋める方法

野菜のうねの間等の土に穴を掘り、ボカシあえを土とよく混ぜ入れ、その上に土をかぶせると、数週間後に堆肥化します。